

# 「コミュニティ」講座

## 高齢化社会と地域コミュニティ(Ⅲ)

— 高齢化社会における町内会の役割 —



菅波内科医院院長

### 菅波 茂

菅波茂先生のプロフィール

- ・昭和二十一年生まれ。
- ・昭和四十七年岡山大学医学部卒業。
- ・昭和五十二年岡山大学医学部大学院（公衆衛生）卒業、岡山大学医学部第一内科入局。
- ・心臓病センター榊原病院勤務。
- ・昭和五十六年菅波内科医院開業。
- ・昭和五十九年アジア医師連絡協議会（AMDA）を組織。
- ・昭和六十一年より地域主導型デイサービス「平津学区シルバーコミュニティ」に参加。
- ・平成二年老人保健施設「すこやか苑」開設。
- ・平成三年「AMDA国際医療情報センター（在日外国人医療）」を設立。
- ・平成四年「あすか在宅介護支援センター」を開設。また、インド農村巡回診療、ネパール農村簡易診療所設立および巡回診療を実施。
- ・平成五年「アスカ訪問看護ステーション」を開設、現在にいたる。

高齢者保健福祉十か年戦略（以下「ゴールドプラン」という）すなわち人口の四人に一人が六十五歳以上の高齢者になると推測される二〇〇一年（平成十二年）までに、高齢者に対する受け入れ体制を整備しようという法律に基づいて、高齢化社会に対応した準備が進め

られている。各市町村はその計画の実現に努力をしている。重要なことは地域格差が是認されたことである。それは、次の理由からである。

- 一、実施権限が市町村にある
  - 二、実施単位が中学校単位である
- 市町村の実施能力により、市町

村ごとに住民の受けられる地域福祉サービスの内容に差がでる。福祉内容は「生活」に直結している。生活は地域差があつて当然である。国および県よりも市町村が担当するほうがより細かな施策が実施可能になる。このことが市町村に実施権限がある理由である。老人保

健施設などの施設整備は中学校単位で認可されるので、老人保健施設の設置場所によりそのサービスを受けられる利便性に差が出るといふことである。地域格差が顕著になると、老後の不安のために地域福祉レベルの高い地域への老人人口の移転が予想される。

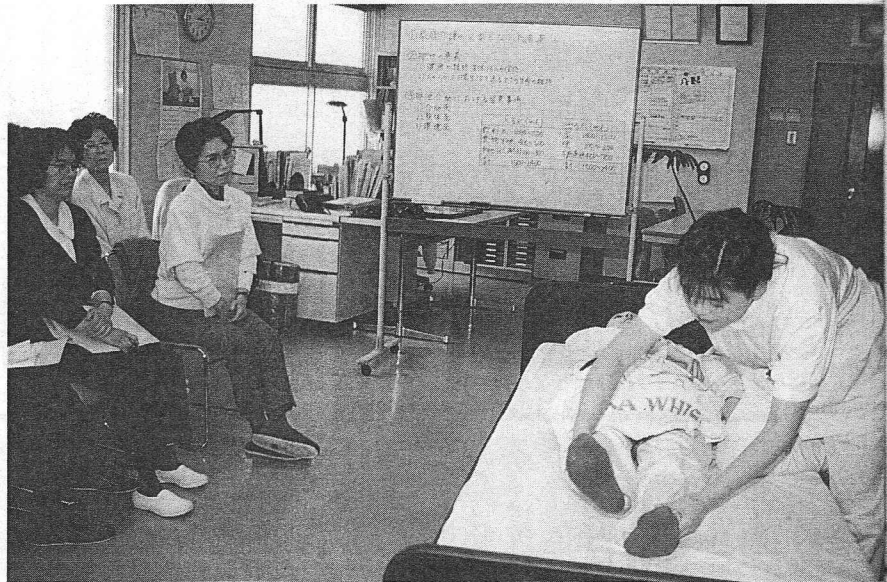
次に重要なことは、地域ケアへの展開であるが、これはゴールドプランを補完する大切な視点である。ゴールドプランにおける在宅ケアのシステムは家族単位である。家庭介護力が崩壊した時に施設利用というのでは、在宅ケアの意味がなくなる。家庭介護力を支援するものとして地域ケアすなわち地域の介護力という新しい考え方がある。「地域介護力」の向上のためには次の要素が必要である。

### 一、意識の向上

### 二、介護技術の普及

### 三、相互支援活動の活性化

ゴールドプランにより施設の整備は順調であるが、その利用については問題がある。すなわち施設を本当に利用しなくてはいけない人たちが十分に利用できていない現実がある。「子が親をみる」という精神風土を基本にしたゴールドプランによる施設整備であったが、逆に同じ精神風土が邪魔しているのである。親の面倒をみることを放棄したと非難されるのである。これが介護に対する意識の向上が求められる理由である。



▲介護技術の勉強風景

術の修得を通して、その背景を理解することにより、介護の実践者に対する思いやりも育ってくる。これが介護技術の普及が必要なる理由である。

相互支援活動なくして地域ケアおよび地域介護力の育成はありえない。ポイントが「誰が地域ケアの担い手であるか」ということである。それは地域コミュニティの各種団体である。地域コミュニティを

中学校学区は複数の連合町内会の範囲であり、地域コミュニティ生活空間の最大限でもある。

以上の観点より「町内会」の存在と果たす役割が高齢化社会において決定的に重要になってくる。

問題は町内会には福祉担当役員がないことである。町内会が地域福祉に応じられる体制を整備して、他の地域コミュニティ各種団体、行政、学校教育などとの連携を密にして、地域コミュニティにおけるリーダーシップを発揮することにより「地域介護力」は具体化してくる。

結論的に言えば、町内会がゴールドプランの活性化のポイントであるといえる。高齢化社会において町内会は地域コミュニティにおける介護に対する意識の向上、介護技術の普及、相互支援活動の活性化などの新たな役割をこなすことになる。

介護技術は施設職員の専売特許であってはならない。家庭で可能な介護技術は介護者および将来介護者になる可能性のある人たちにどんどん伝授していくべきである。特に介護技術の未熟さにより貴重な介護者が身体を痛めて家庭介護から脱落していく愚かさは、絶対に避けなければならない。介護技

ティを支えている町内会、婦人会、老人クラブ、子ども会などである。すなわち、これらの団体は基本的に相互扶助を目的とするボランティア団体である。そして町内会が地域コミュニティ団体のヒエラルキーの頂上にある。町内会が動けば地域コミュニティが動く。小学校学区は連合町内会の範囲であり、

今回は「阪神・淡路大震災におけるAMD Aと地域の相互扶助組織」について。